



ゲストスピーチ

山形大学農学部学部長 渡部徹様

誕生月

池田拓哉君 伊藤礼人君
渡部芳春君 早坂剛君 本間千佳子君

会長挨拶 会長 鈴木孝純君

先月の 4 月 18 日 (土) の創立 60 周年記念式典・祝賀会から早 1 ヶ月が経とうとしております。皆様のご協力により盛会裡に終えることができましたこと、重ねて感謝申し上げます。また、私の会長職の任期もあと 1 ヶ月半となりましたが、最後まで気持ちを引き締めて頑張りたいと思いますので宜しくお願いいたします。

さて、物心両面にわたって豊かになった今の日本ですが、成長段階のさなかにある子どもの問題として、自尊感情の乏しさや規範意識の稀薄、自己管理の未熟さなどが挙げられています。これらの現状を踏まえ、文科省は 2018 年より小学校、2019 年より中学校において「道徳の時間」を「特別の教科 道徳」に格上げし、道徳教育の推進・強化を打ち出しました。「戦前の修身の復活ではないか」などの意見もありましたが、しかし、教科としての道徳であろうと修身であろうと、道徳の根本は、自他の尊重にあります。

修身で思い起こされるのが、明治から昭和にかけての長い間、「尋常小學校修身書 兒童用巻三」(文部省著作・3 年生用)に取り上げられ、ここ鶴岡を舞台とした次の話です。

第十八 じぜん

『むかし羽前の鶴岡に鈴木今右衛門といふじぜんの心の深い人がありました。大ききんの時、田はたをはじめ家のだうぐまでうつて多くの人をたすけました。今右衛門のつまも心だてのよい人で、ほどこしをするために、着物るみをうりはらひ、はれ着が二まいだけのこつてゐましたが、「着がへがなくなつて外へ出ることが出来なければ、くし

やかんざしの入用ありません。これらの物を金にかへて、もつと多くの人をたすけませう。」といつて、はれ着とともにくし・かんざしも皆うつてしまひました。

今右衛門ふうふに十二さいになるむすめがありました。あるさむい日同じ年ごろの女の子が物もらひに來ました。母はそれを見て、むすめに「あの子はひとへ物一まいでふるへてゐます。おまへの着てゐるわたいを一まいやつてはどうです。」といひましたら、むすめはすぐに上に着てゐる方をぬいでやりました。

ワガミヲツメツテ、人ノイタサヲ知レ』。(原文のまま)

今右衛門の話は、天明 3 年の東北地方一帯を襲った大飢饉の時、津軽や南部からも多くの人たちが庄内に食物や衣類を求めて來た状況の一端が記されたものです。修身書で学んだ当時の子どもたちの多くは、今右衛門夫婦の慈悲心とその娘の素直な態度から、分かち合うことによって難儀な人を救うことの大切さ、正に自他尊重の精神という道徳心を学んだことでしょう。

『我が身をつめて (＝つねって)、人の痛さを知れ』。

庄内の先人が示した慈善の姿勢を、私たちは今一度、心に刻む必要があると思います。

なお、この慈善を後世に永く伝えたいとの念願から、鶴岡市水沢の日本蕎麦「大松庵」の建物は鶴岡市内にあった今右衛門宅を移転復元したものです。



幹事報告

小野寺佳克君

RYLA 研修

2026 年 6 月 6 日 (土) 田代地区多目的交流館『学びの里 TASSHO』

第 33 回インターアクト年次大会 開催のご案内

2026 年 6 月 5 日 (金) 戸沢村中央公民館

親睦交流ゴルフコンペ

2026 年 6 月 22 日 (月) 庄内ゴルフ倶楽部

